

地球惑星科学委員会

地球惑星科学人材育成分科会（第25期・第3回）議事要旨

日 時：令和4年12月27日(火) 13:00-14:30

会 場：遠隔会議（主催会場：東京大学）

参加者

西弘嗣（委員長）、田近英一、木村学、堀利栄（幹事）、佐藤馨、久家慶子、大路樹生（副委員長）、小口隆、小島智、山形俊男、佐々木晶、阿部なつえ、氷見山幸夫、張勁、西山忠男、藤井良一、春山成子、大谷栄治、中村卓司、佐々木晶、佃栄吉、川口慎介、平田直、掛川武（幹事、書記）

議事

1. 初等中等教育小委員会の活動報告（阿部委員長）

（1）本年度の活動としては、以下のような JpGU と関連した活動がある。

- JpGU の教育委員会では地学教育関連教員（主に高校の先生）とオンラインで情報交換会を実施している。この連携では2ヶ月に一度会議を開催し、授業の資料作成などに関して意見交換を行った。
- Earth Week Japan の活動にも参加した。
- 次回の JpGU の大会でもユニオンセッションを開催する予定である。

（2）地盤工学会が3月に防災教育の観点から提言を出すことを計画しており、そのときに24期の初等・中等教育検討小委員会から公表した提言に関して触れたいとの申し出が初等・中等教育小委員会にあった。この件に関して小口連携会員から補足説明があったが、分科会もしくは小委員会としてどのようなサポートが必要か不明確のため、確認してもらいたいとの意見が出された。提言の発信が地盤工学会主体である場合は、基本的に提言に賛同する旨が承認された。

2. 高等教育小委員会活動報告（堀委員長）

令和4年6月2日に全国地球惑星系学科長・専攻長会議との合同で高等教育検討小委員会（第25期・第2回）を開催し、以下の2点の報告があった。

(1) 高等教育における最近の動向に関して2つの話題提供があり、1つは山口大学からの固体地球科学系の学生・院生就職先の動向変化のアンケート調査結果に関する報告で、もう1つは、掛川連携会員による J-DESC や次世代火山研究者育成プログラム単位互換制度に関しての取り組みに関しての紹介があった。

(2) 学科長専攻長会議の内容およびアンケート結果に関しての報告があった。

- アンケートの継続性は重要であるので次年度も行う。しかし、経年的な変化を記録するだけでなく、次世代育成に生かすことができるように、アンケートの内容を検討することも必要であることが指摘された。
- 次回の学科長・専攻長会議もオンラインで開催する方向で、年度が変わった後がよく、開催時期を考慮する必要がある。
- 大気や宇宙惑星系でも学生のキャリア動向を把握に協力できると思うので、地質学会のアンケートデータを参考に具体的にどんな項目が必要か、などの情報を提供してもらいたいとの依頼があった。また、同様に関連する学会や JpGU セクションの協力を得ることも必要であることも指摘された。

今回の25期では意志の表出は行わないことになった。しかし、初等・中等小委員会では次期26期では、今回の提案のあった地盤工学会とも協力して提案できるように考慮してもらいたいとの提案があった。特に初等中等教育の教員の養成に関しては、高等教育小委員会との連携も必要との意見もあった。

3. その他

(1) 地理教育（必修化に伴う問題）に関して意志の表出を行う準備をしていることが報告された。

(2) 高校の探求研究の単位認定に関して情報交換を行った。この問題に対応できる人材育成や大学の協力が将来的に求められることが指摘された。

(3) 島根の国際教育シンポジウム、地学オリンピック、ジオパークの情報が不足していることが指摘された。その原因として、これらの情報を有する会員や連携会員が不在であることが指摘され、次期連携会員の人選で考慮すべきとする意見があった。

(4) 日本学術会議をめぐる最近の動向に関して意見交換を行った。最初に、委

員長から今回の学術会議からの声明、「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」について再考を求めます」に関する紹介を行った。それに対して、総合科学イノベーション会議のコメントや日本学術会議の声明に関して質問があった。特に、この声明に関する説明だけではこれまでの状況がわかりづらく、会員の任命拒否からの経過を説明した方がよいとの指摘があった。今後は、おそらく急速な展開があると思われる。参考として、日本学術会議の状況を説明した「日本学術会議（大西隆著）」という本が出版されているので、参考にさせていただきたいとの紹介もあった。詳しくは地球惑星科学委員会で説明がある予定である。